

# 令和6年度 いずみルーム

～いずみルームで自分らしく学べます～

【いずみルームが目指していること】

- ・学校で安定した気持ちで過ごせるようになること。
- ・自分のよさを知り、自分に合った学び方で意欲的に学べること。

【いずみルームの対象となる児童】

- ・通常の学級におおむね参加しているけれど、心配なことや困っていることがある児童

- ・教室の一斉授業の中で先生の話聞きとって行動できるようになりたい。
- ・気持ちの切り替えや、行動のコントロールの仕方を知りたい。
- ・手先の使い方やノートの取り方が上手になりたい。
- ・学習の中で苦手なことがあり、学習の仕方を知りたい。
- ・友達と仲良く遊べるようになりたい。
- ・楽しく運動したい。

というような願いをもった児童が、在籍学級で力を発揮できるように指導します。

【指導日・時間】

- ・指導時間は週に1,2時間の子がほとんどです。行事や特別な授業があるときは、在籍学級を優先します。

【巡回体制】

- ・巡回指導教員（大泉小学校を拠点校とし、3校を巡回して指導しています。）
- ・特別支援教室専門員（月、火、木、金の週4日本校に常駐し、巡回指導教員と連携して児童を支援します。）
- ・巡回心理士（年間40時間巡回し、指導・助言、学級の観察等を行います。）

保護者とは年に数回の面談や毎週の連絡ファイル、保護者学習会などを通して児童の実態や指導の成果を共有し、共に児童を育てていきます。

【指導内容について】

- ・原則として、個別学習と小集団学習（いずみタイム）を組み合わせる指導を行います。一人一人に合った学習内容を行います。
- ・巡回指導教員や特別支援教室専門員が学級の支援や観察を行い、いずみでの指導が学級に生きるようにします。
- ・児童に係る教員やスクールカウンセラー、管理職や学校生活支援員など児童の適応状況について情報交換を行い、連携して支援にあたります。

## 【個別学習】

学級参加の様子や、アセスメント（発達検査 WISC などの結果）を基にそれぞれの児童に合った指導の方法を計画し（連携型個別指導計画）、自信をもって生活できるよう指導を行います。必要に応じて国語・算数の内容を扱いますが、学習の補充は行いません）

### 《指導例》

見るトレーニング	物を目で追う、同じ形を探す、眼球運動を行う、間違い探し（必要に応じて視知覚検査を行い、教材を選びます）など。
聞くトレーニング	耳からの情報を捉える、聴いた情報の中から必要な内容を選ぶ、メモを取る。
※協応運動	はさみで線を切る、迷路、折り紙、定規などの用具の取り扱い、塗り絵 など。
手指の操作	点つなぎ、運筆 など。
読む	音読、単語のまとまりを見付ける、字形や単語を絵（イメージ）で選ぶ。
書く	漢字、手本を見て丁寧に書く、板書を写す、気持ちを文章に表す、作文、言葉を知るなど。
話す	会話のやりとりをする、みんなの前でスピーチをするなど
計算する	具体物の操作、マス目の活用（筆算）、計算カードで九九の習得など

※協応運動・・・手と目の動きなど、いくつかの体の部分を運動させて行う動き

## 【小集団学習】

2人以上の小集団で、大人も介入して関わり合うことで、集団参加やコミュニケーションの仕方を練習します。

### < 運動 >

身体のいろいろな感覚を用いて体を動かしたり、姿勢の保持に必要な体幹を鍛えたりします。

### < 制作 >

作品づくりを通して、手先の巧緻性を高めたり、自分のイメージを表現したりします。指示を聞き取る、見通しをもつ、達成感を得る、支援要請をするなどの学習体制の基本も併せて学べるようにします。

### < ソーシャルスキルトレーニング (SST) >

活動に応じて人との関わり方の基本を学びます。話し合いで自分の考えを伝えたり、相手の話を聞いて質問したり、勝敗のある活動のルールを学んだりします。

## 【退室について】

入室時の目的を達成した時点で退室となります。原則、一年ごとに指導の見直しを行います。